

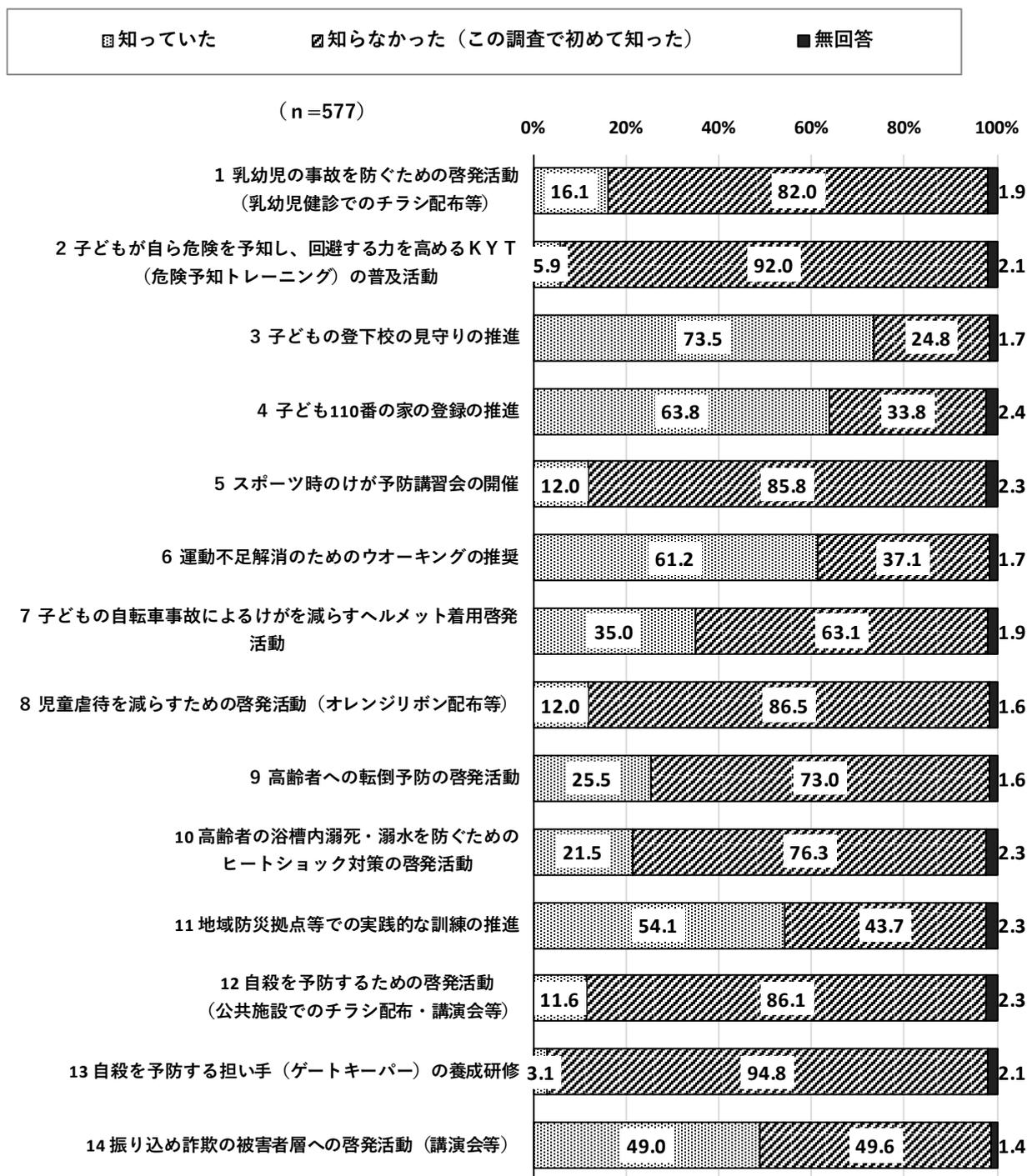
3 セーフコミュニティの取組

(5) けが・事故等の予防の取組の認知度

<全体>

- ・セーフコミュニティの取組について「知っていた」の割合は「子どもの登下校の見守りの推進」が73.5%で最も多く、次いで「子ども110番の家の登録の推進」(63.8%)、「運動不足解消のためのウォーキングの推奨」(61.2%)の順となった。その一方、「自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修」「子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT(危険予知トレーニング)の普及活動」を「知っていた」の割合は1割以下となった。
- ・男女別でみると全ての項目において「男性」より「女性」の方が、「知っていた」割合が高い。

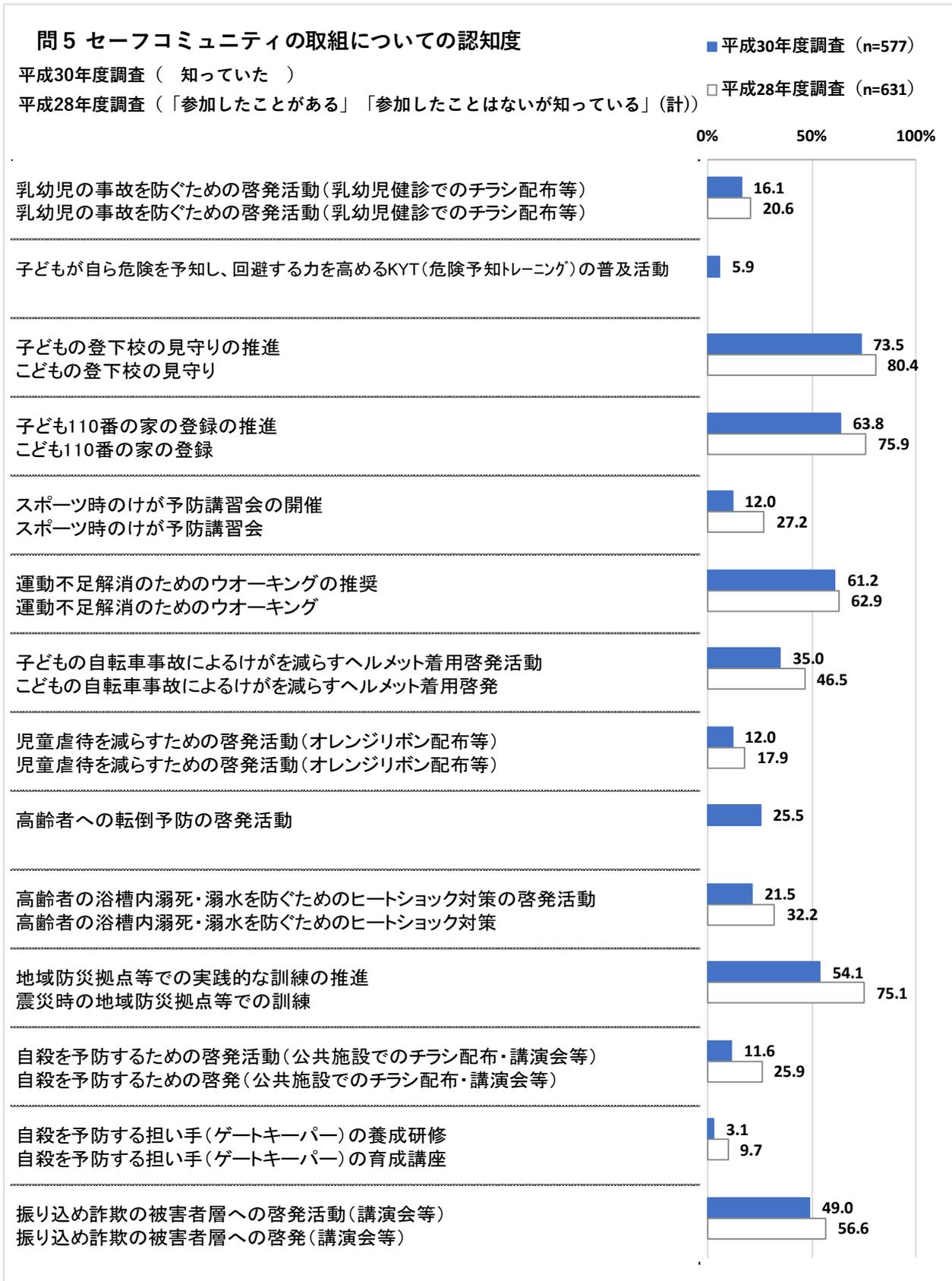
問5 セーフコミュニティの取組についての認知度



【けが・事故等の予防の取組の認知度： 時系列】

<平成28年度調査と比較>（参考：平成28年度調査と選択肢が異なるため）

・平成28年度と比較すると、全ての項目で認知度は減少している。



【けが・事故等の予防の取組の認知度： 属性別】

1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動（乳幼児健診でのチラシ配布等）

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、15.3ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

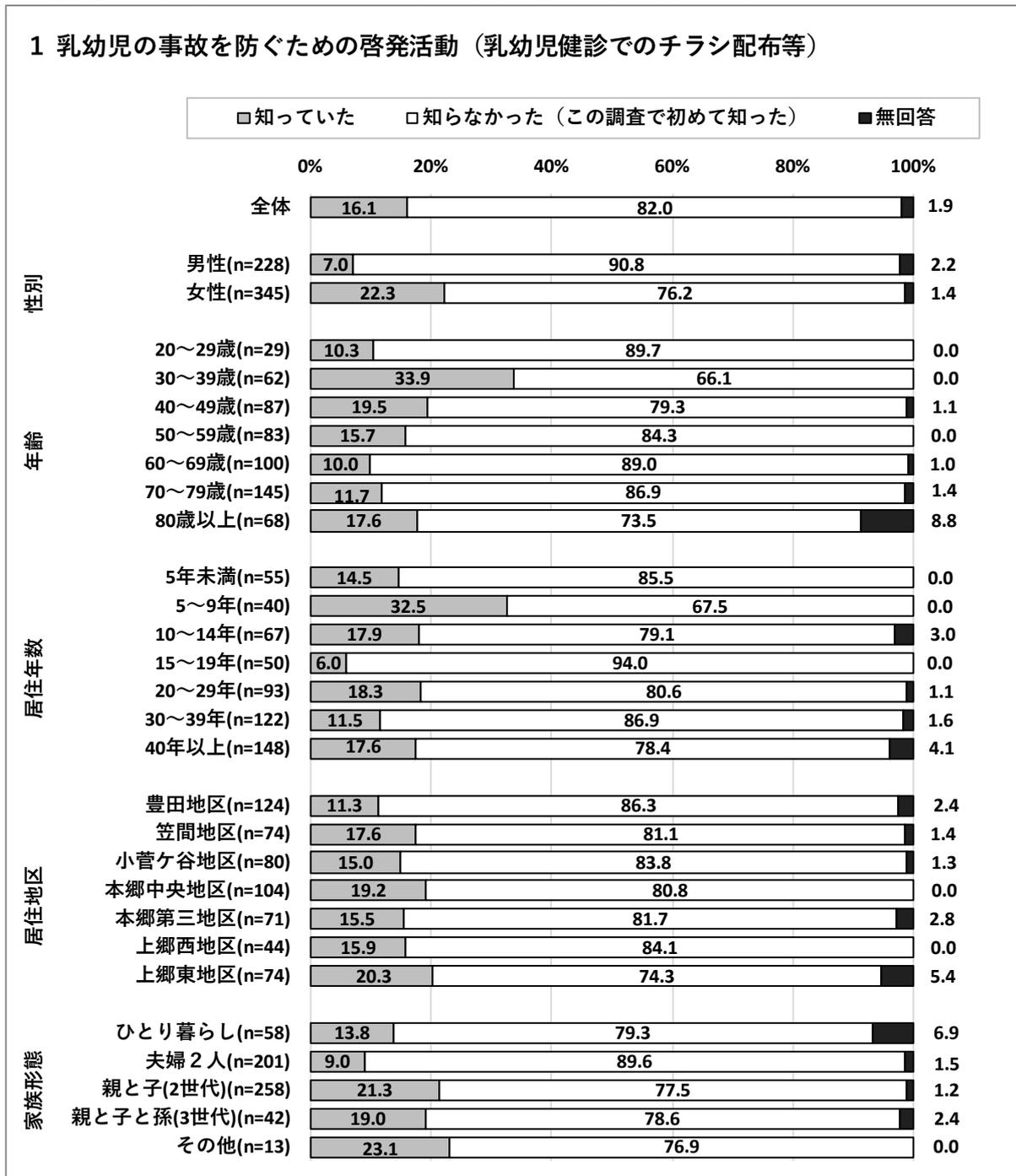
・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住地区別>

・居住地区別には大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT（危険予知トレーニング）の普及活動
 <性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、1.1ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には大きな差は見られない。

<居住年数別>

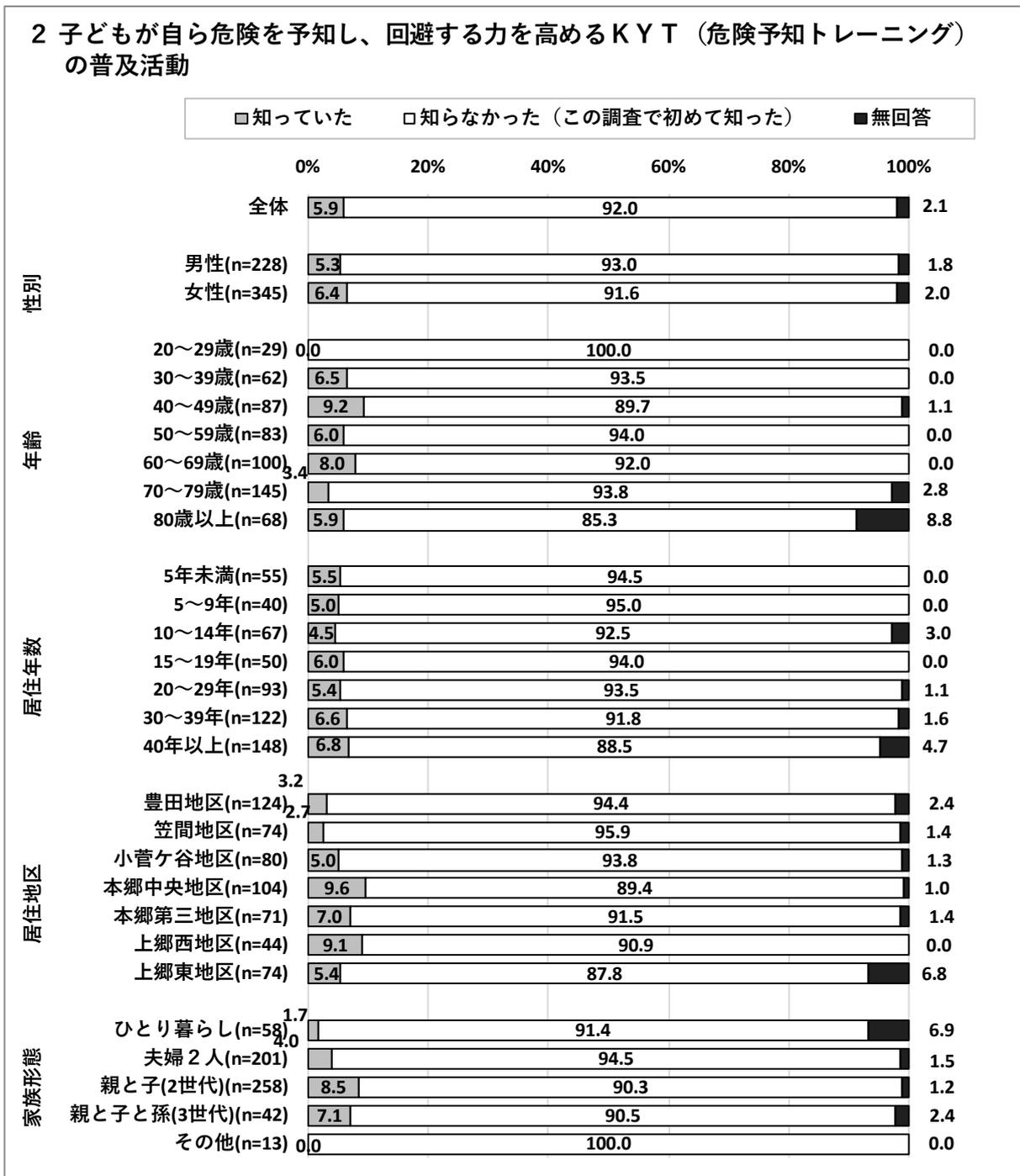
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・居住地区別には大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



3 子どもの登下校の見守りの推進

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、8.2ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

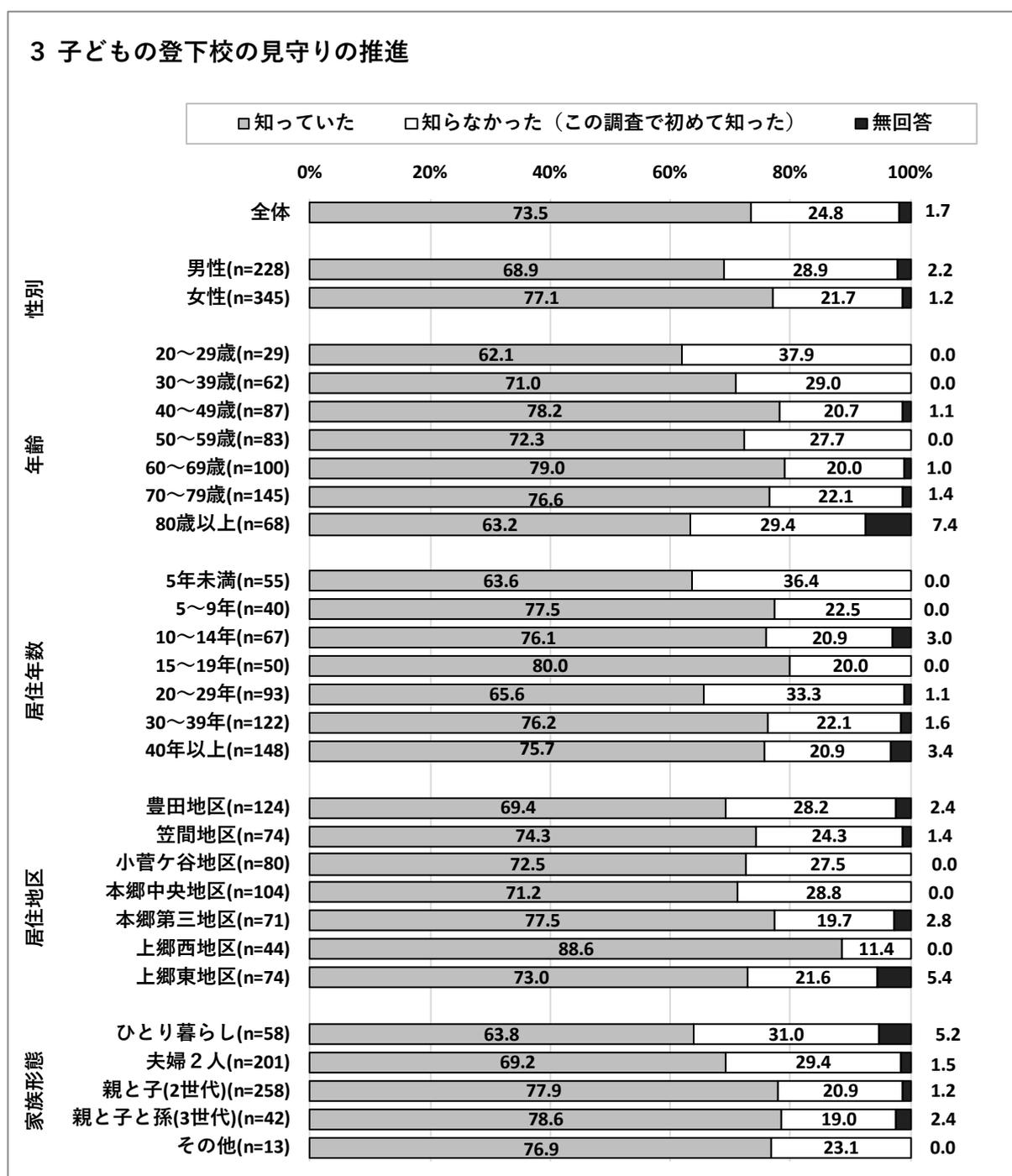
・「15～19年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



4 子ども110番の家の登録の推進

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、14.3ポイント高い。

<年齢別>

・「40～49歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

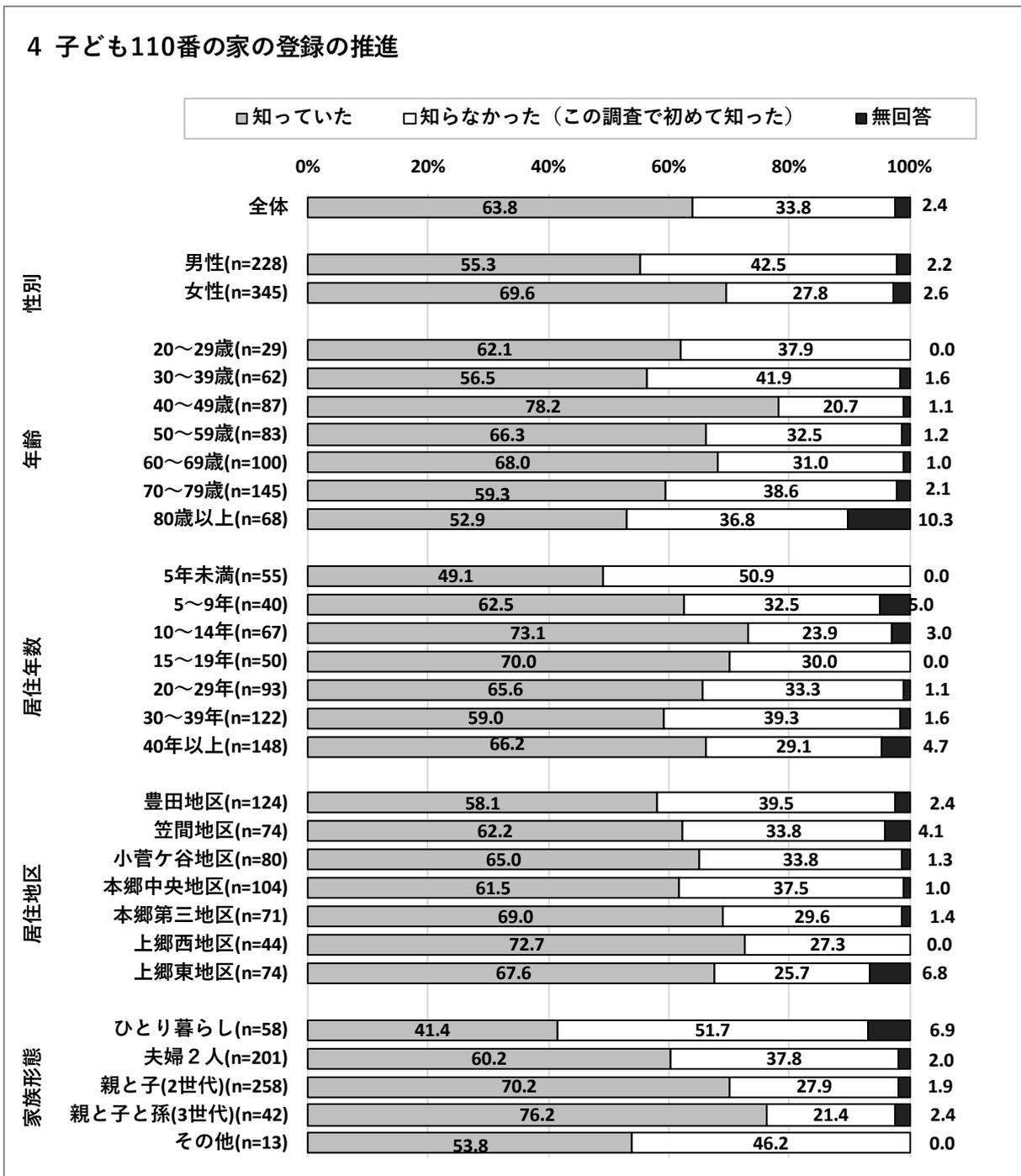
・「10～14年」「15～19年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。



5 スポーツ時のけが予防講習会の開催

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、4.0ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

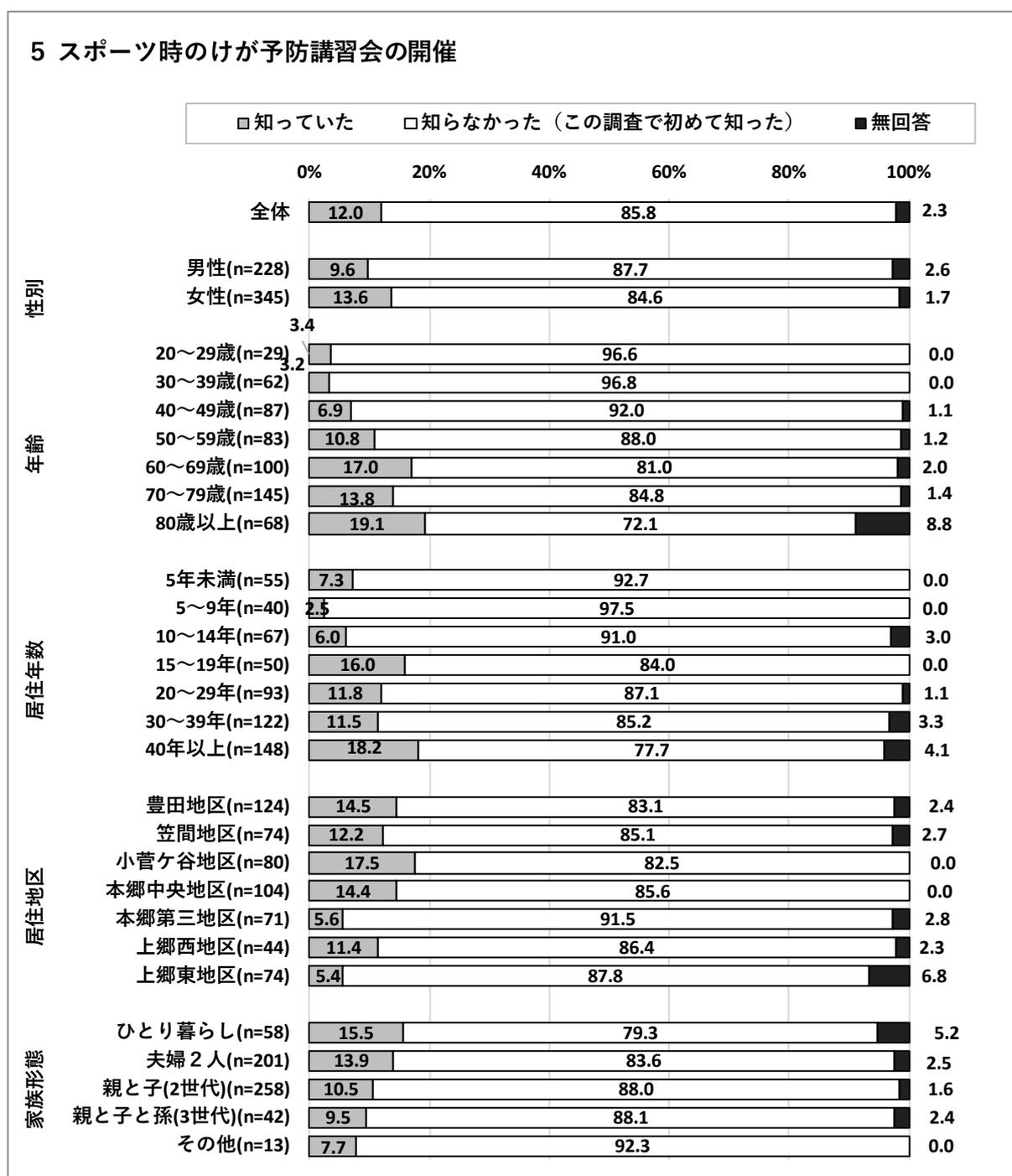
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな変化は見られない。



6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、22.3ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

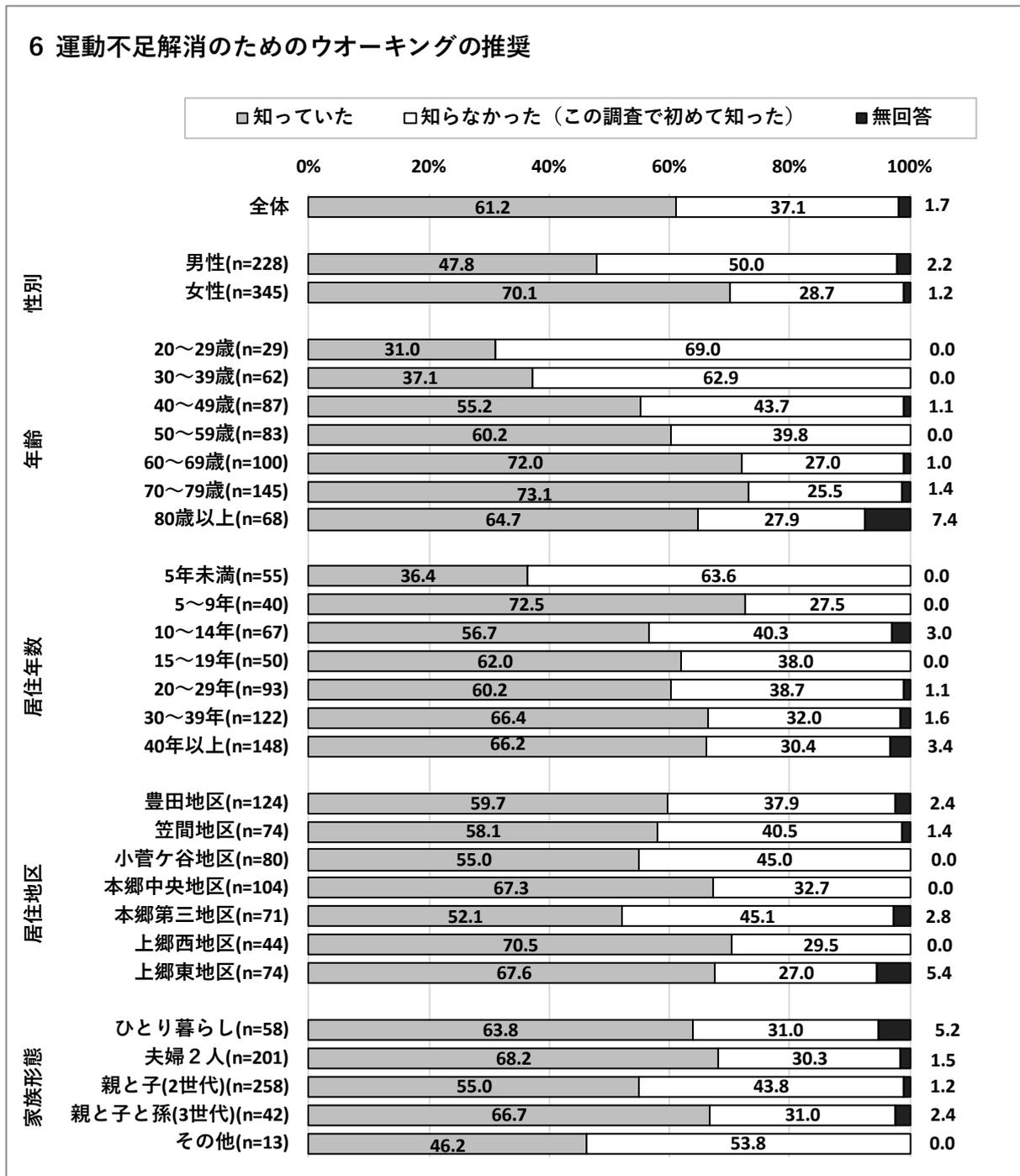
<居住地区別>

・「本郷中央地区」「上郷西地区」「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨



7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、5.8ポイント高い。

<年齢別>

・60歳以上では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」及び30年以上では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

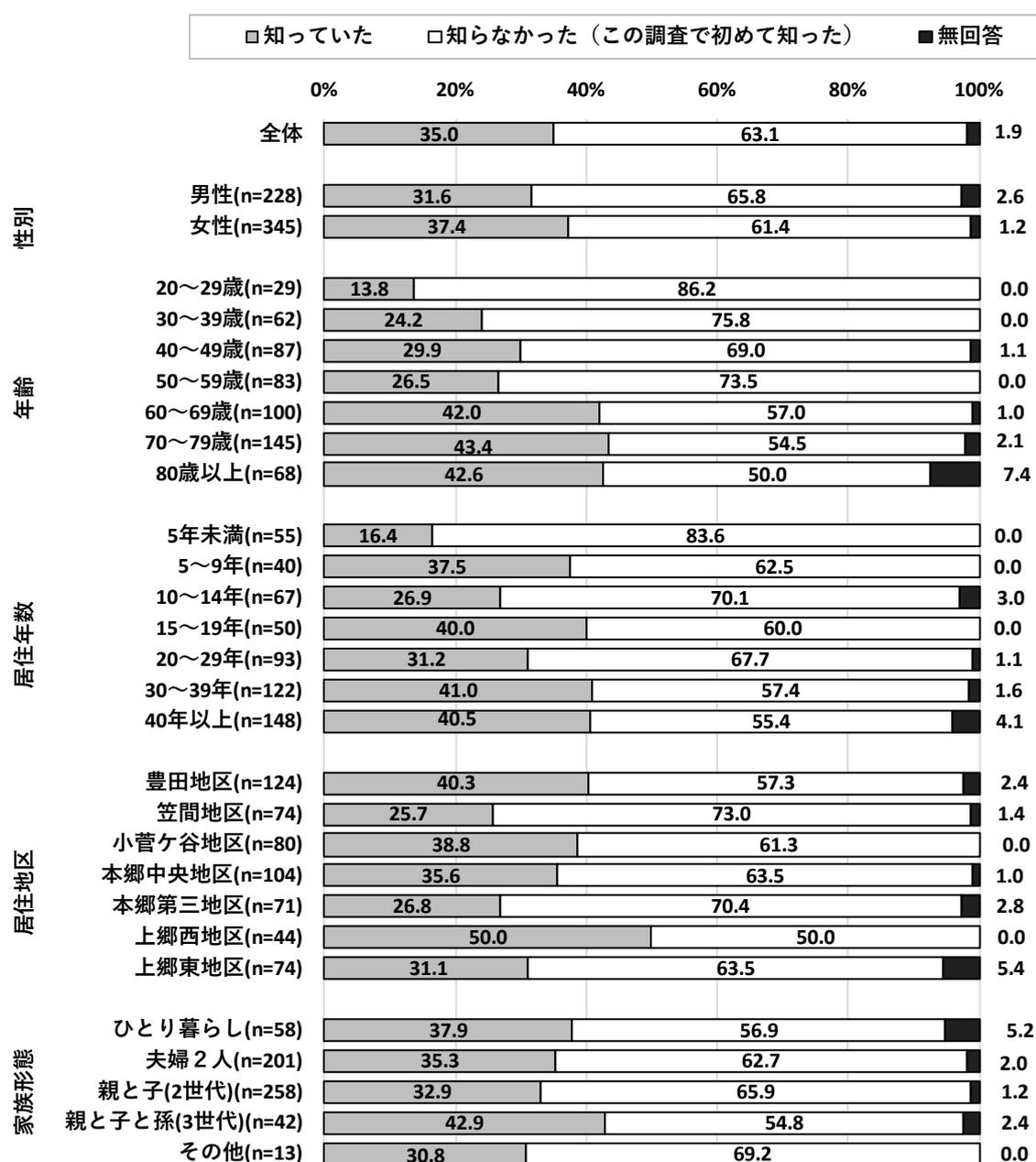
<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動



8 児童虐待を減らすための啓発活動（オレンジリボン配布等）

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、4.0ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

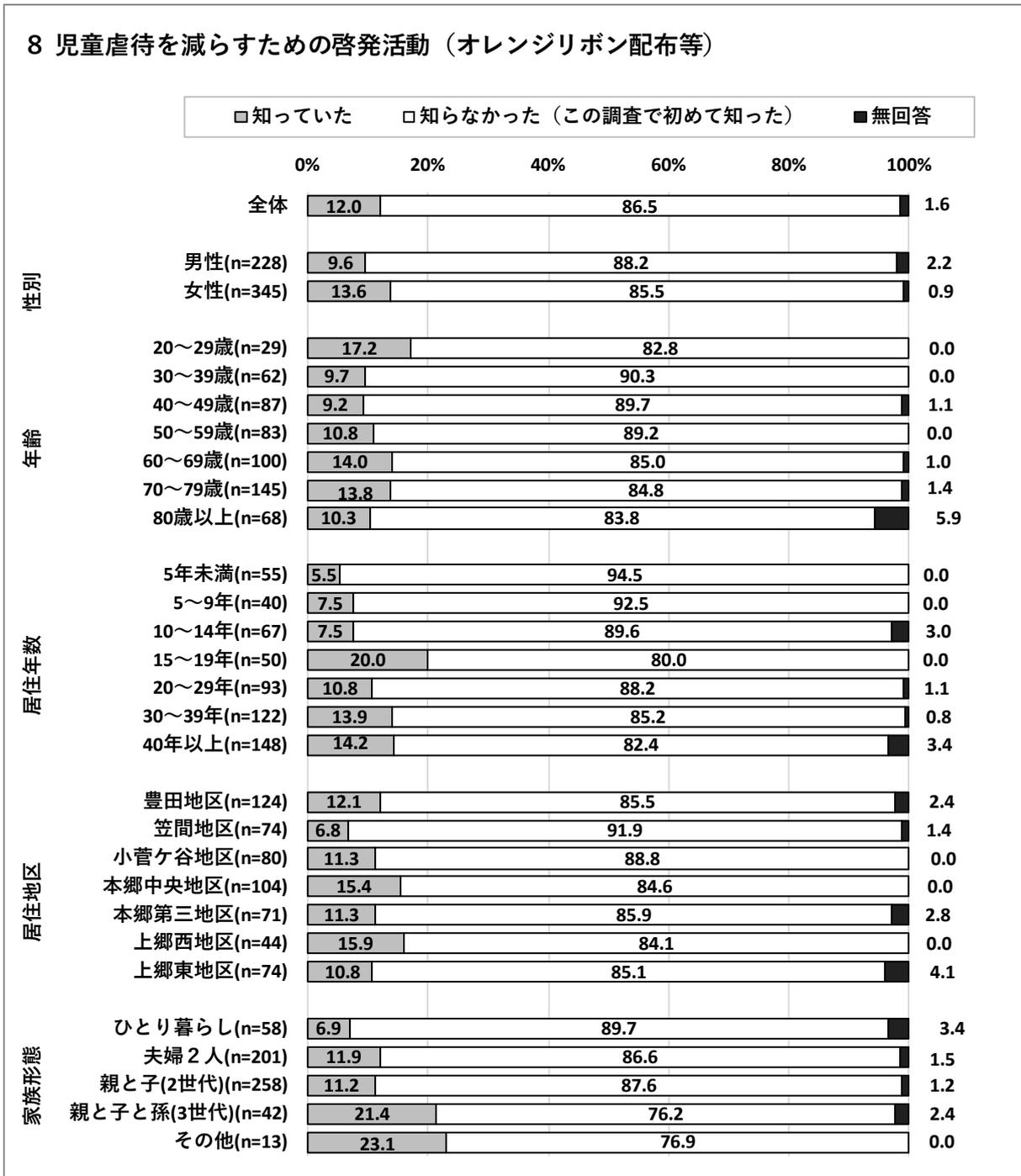
・「15～19年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上低い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



9 高齢者への転倒予防の啓発活動

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、8.4ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」を除いて、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する
 ・70歳以上では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

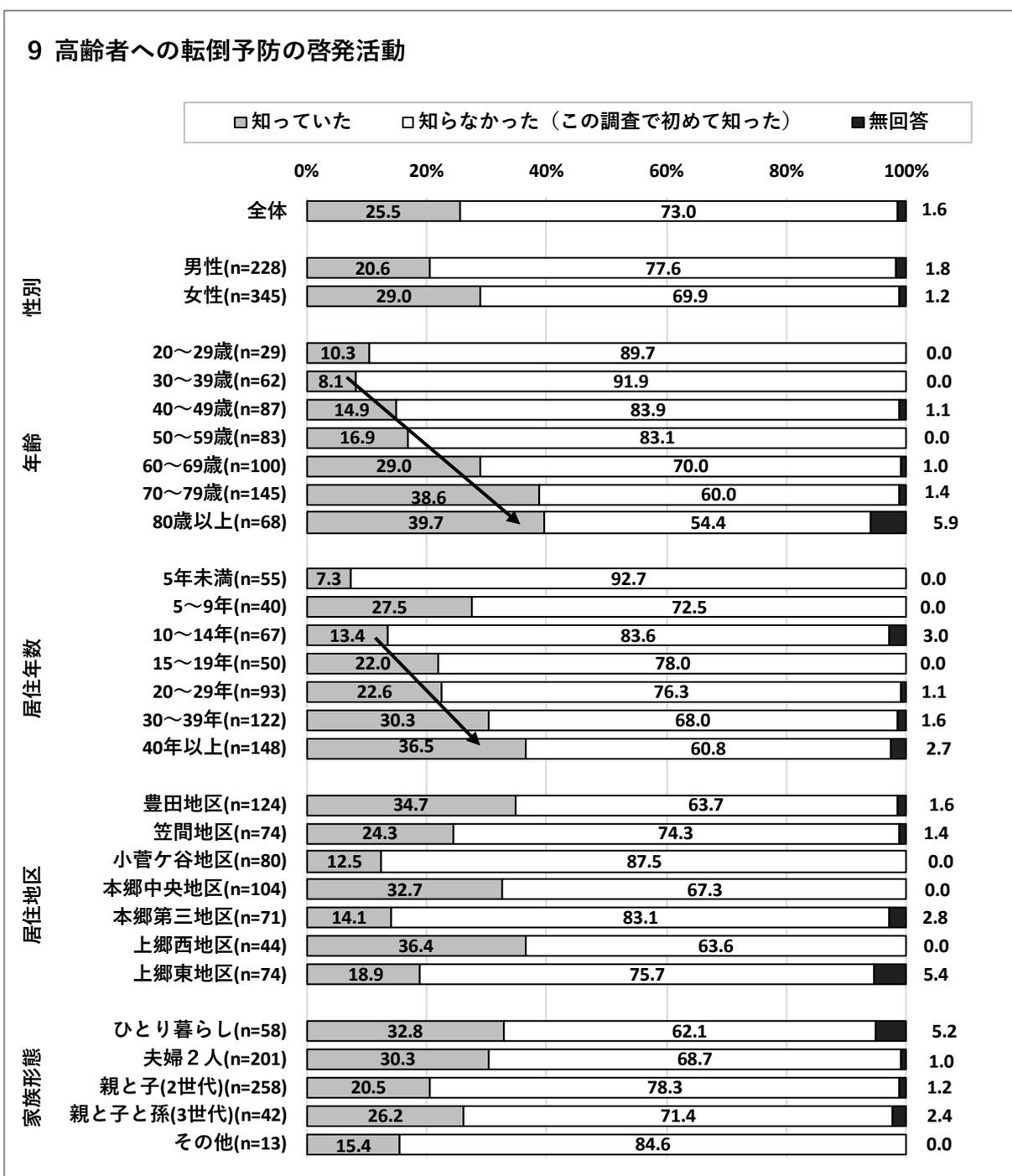
・10年未満を除いて居住年数が長いほど「知っていた」の割合が増加する。
 ・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策の啓発活動

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、10.1ポイント高い。

<年齢別>

・年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する
 ・70歳以上では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント程度高い。

<居住年数別>

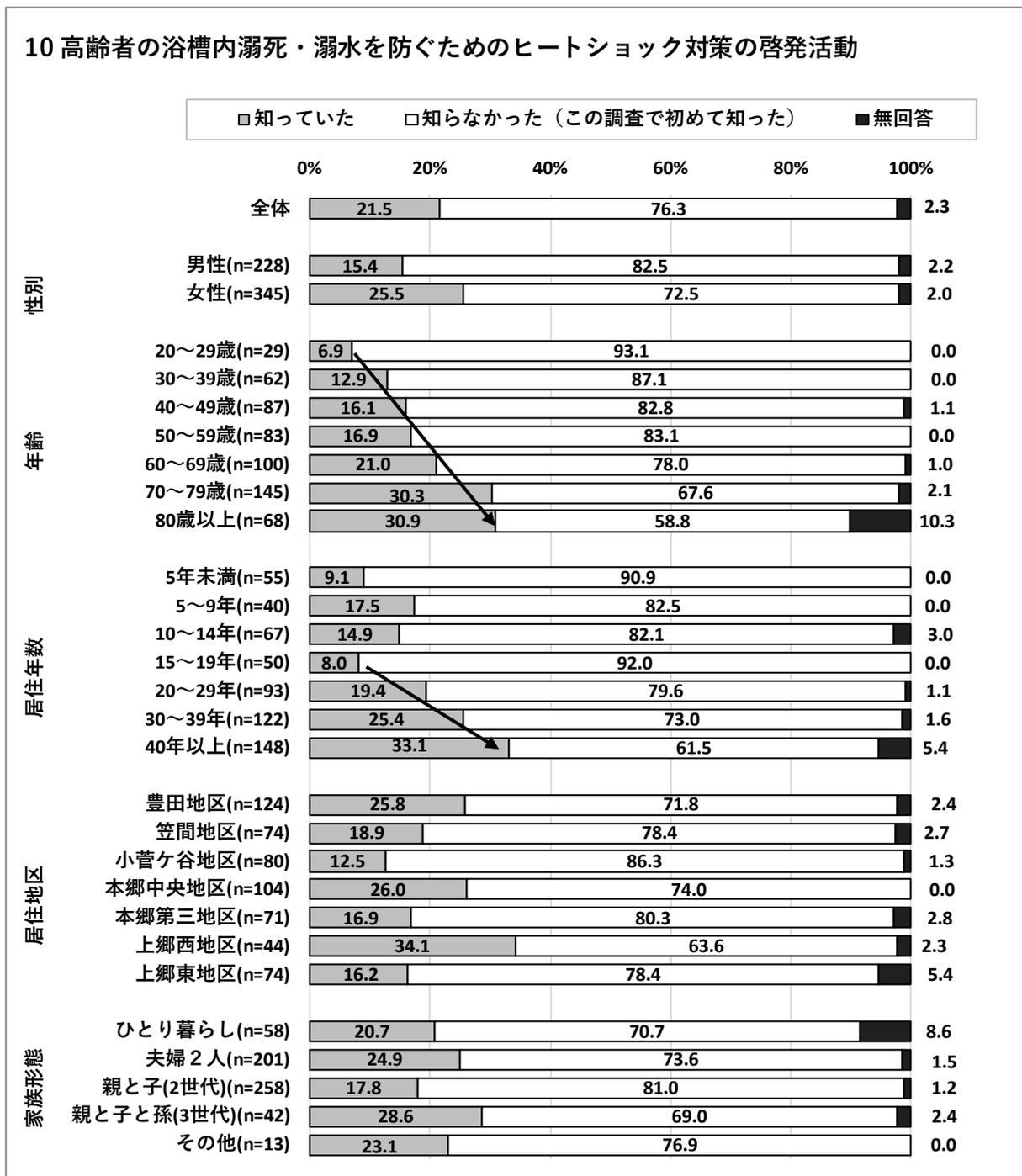
・15年未満を除いて居住年数が長いほど「知っていた」の割合が増加する。
 ・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、11.7ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

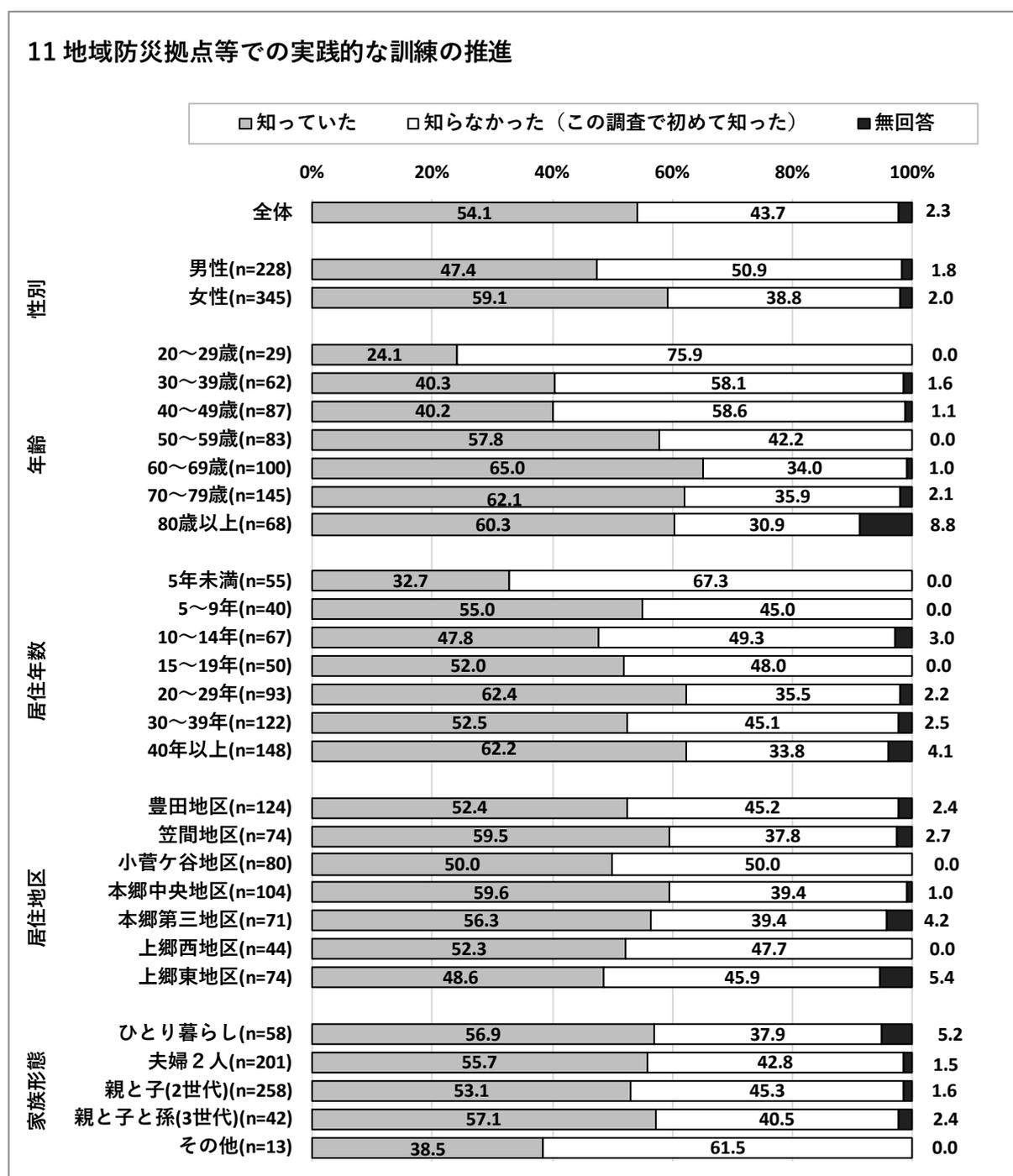
・「20～29年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」「本郷中央地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



12 自殺を予防するための啓発活動（公共施設でのチラシ配布・講演会等）

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、9.3ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には大きな差は見られない。

<居住年数別>

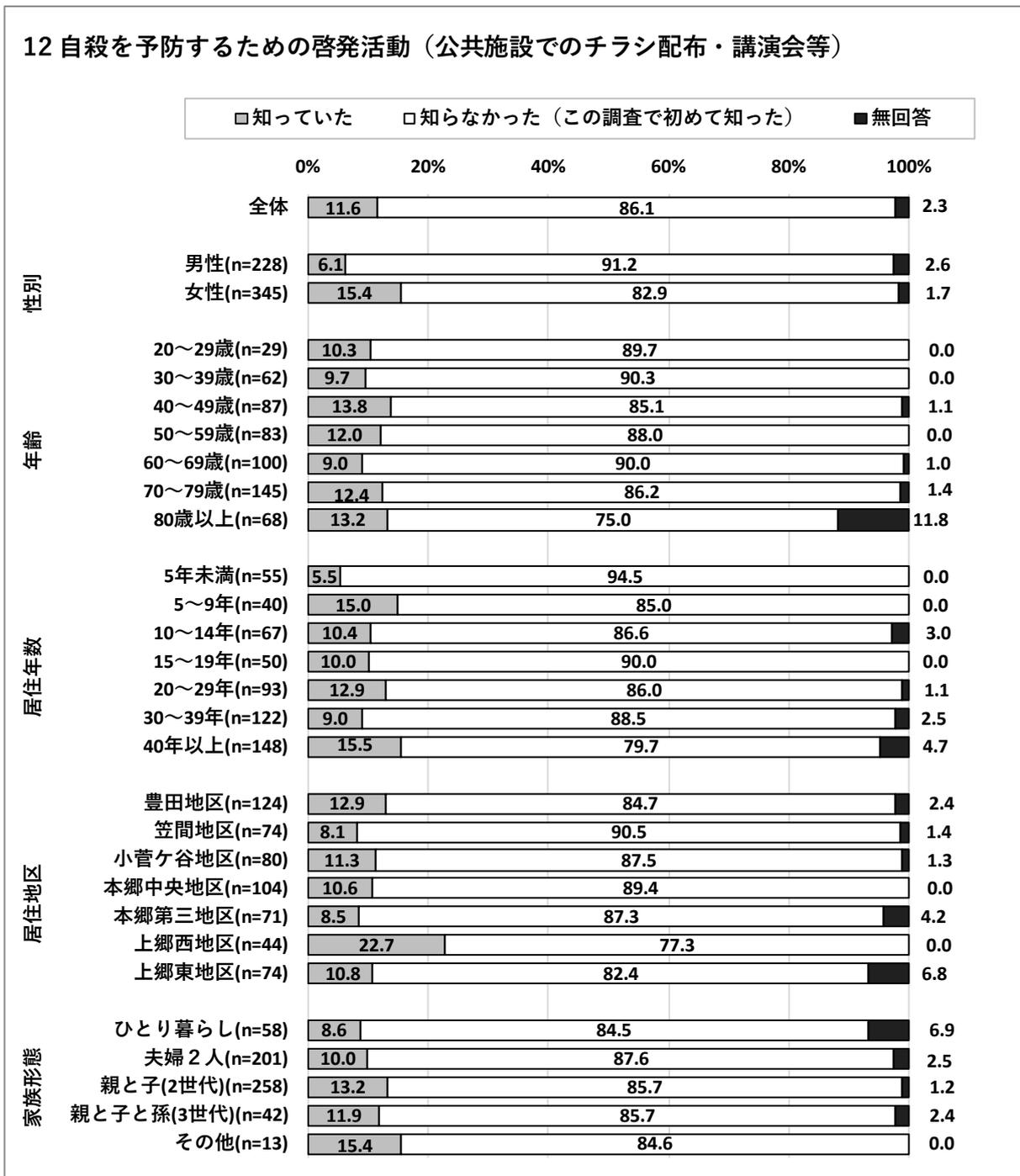
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



13 自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の養成研修

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、3.7ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には大きな差は見られない。

<居住年数別>

・居住年数別には大きな差は見られない。

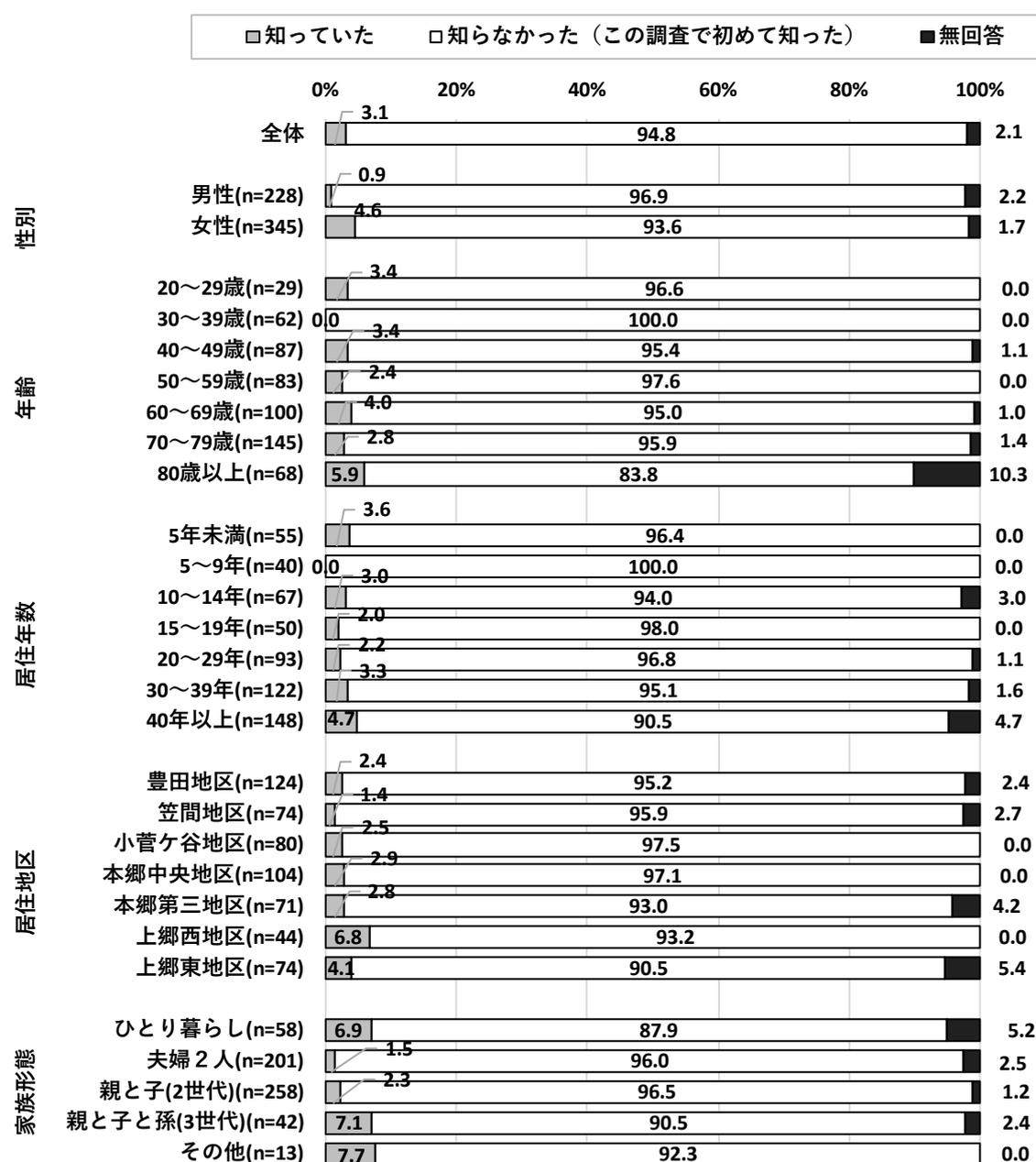
<居住地区別>

・居住地区別には大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。

13 自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の養成研修



14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動（講演会等）

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、16.9ポイント高い。

<年齢別>

・年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する傾向がある。
 ・60代以上では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

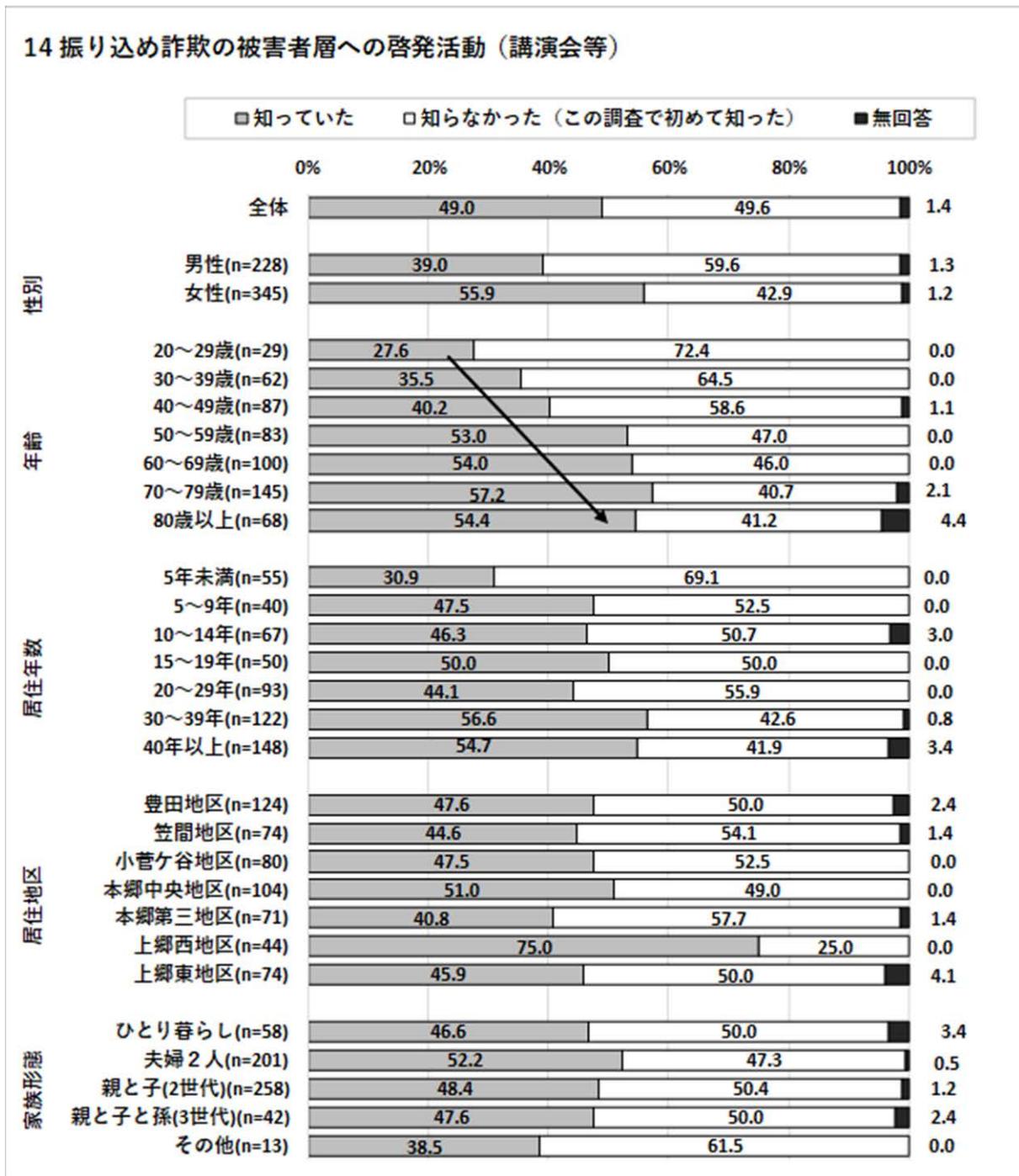
・30年以上では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より25ポイント以上高い。

<家族形態別>

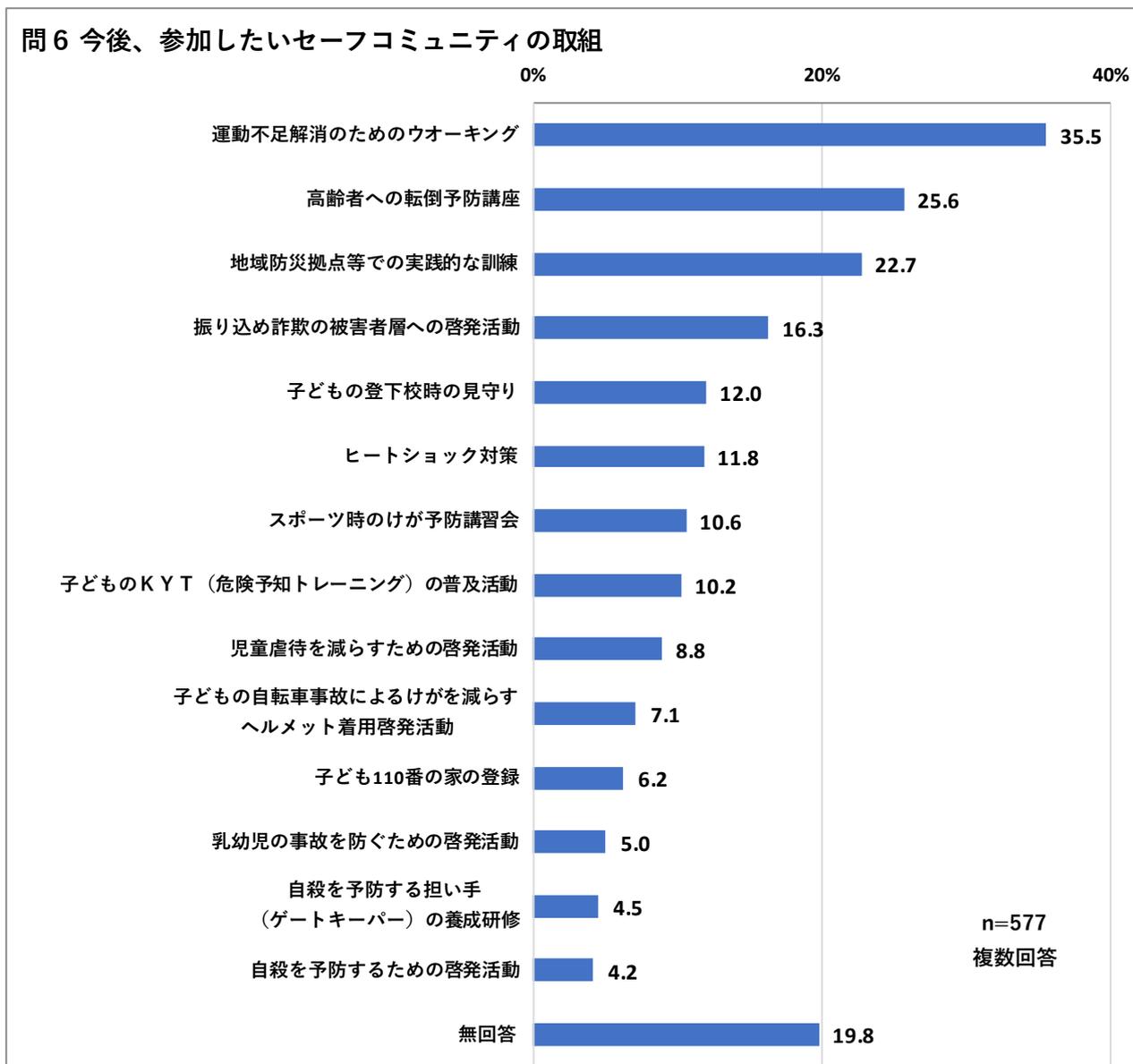
・家族形態別には大きな差は見られない。



(6) 参加したいセーフコミュニティの取組 【新規】

<全 体>

・「運動不足解消のためのウォーキング」が35.5%で最も多く、次いで「高齢者への転倒予防講座」(25.6%)、「地域防災拠点等での実践的な訓練」(22.7%)、「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」(16.3%)の順である。一方、「自殺を予防するための啓発活動」と「自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修」を挙げた方は5%未満である。



III 集計分析結果

【参加したいセーフコミュニティの取組： 属性別】上位4項目

<性別>

- ・「運動不足解消のためのウォーキング」「高齢者への転倒予防講座」では「女性」の方が、「地域防災拠点等での実践的な訓練」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」では「男性」の方が割合は高い。

<年齢別>

- ・「高齢者への転倒予防講座」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」では、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

- ・「上郷東地区」で「高齢者への転倒予防講座」の割合が、「本郷第三地区」で「地域防災拠点等での実践的な訓練」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

- ・「親と子(2世代)」で「高齢者への転倒予防講座」の割合が、他と比べて低くなっている。

